富士岡の銀杏（いちょう）地蔵

平成八年七月五日号

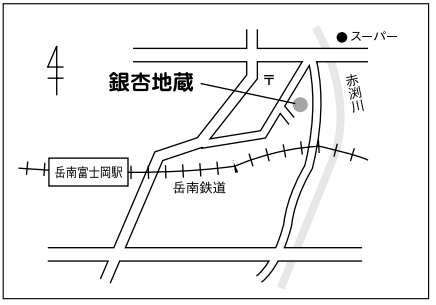
富士岡に乳房が垂れたような大イチョウがあります。その前に地蔵堂が建っており、このお地蔵さんは「銀杏地蔵」と呼ばれています。イチョウの木は、樹齢六百年以上といわれ、静岡県の天然記念物にも指定されているほどの大木です。

今回は、毎年七月二十三日に縁日を行っている銀杏地蔵のお話です。

昔、赤渕川に山津波があって、一軒の民家が矢のように流されてきました。ところが、不思議なことに、富士岡の大イチョウのところまで来ると、民家は枝にからまり、ピタリととまりました。そして、流れてきた民家の屋根の上には、乳飲み子を抱えた母親がしがみついていたのです。

近所の人々が駆けつけて助け出しましたが、その一件以来、母親の乳房からは一滴の乳も出なくなってしまいました。そのため、子どもは火がついたように泣き、母親はただ途方に暮れるだけでした。

そのとき、母親はイチョウの木の言い伝えを思い出しました。そして、言い伝えが本当



であってくれるように祈りながら、イチョウの木の乳房に針を刺してみました。するとどうでしょう、その晩から流れるように母親の乳が出るようになったのです。

やがて、その子どもは成人し、子育てイチョウのご神体として、石のお地蔵さんをイチョウの木の根元に祭りました。

▶ 大イチョウ

吉永地区の郷土史に詳しい

荻野武彦さん（富士岡）

このイチョウの木の乳房のようなものを、このあたりの人は「おっぱい」と呼んでいます。正しくは、「乳状下垂」といい、成長したイチョウの木などには、よく見られるそうです。でも、これほど大きなものは珍しいのではないでしょうか。

昔は、母乳が出ないということは、赤ん坊にとって命取りになるほど大事なことでした。そんなことから、今でも針を刺せば白い液が出てくる、このありがたいイチョウの木を祭ったのでしょう。